

19 悪条件下での運転

- 1 下り坂を走行中にブレーキがきかなくなった時は、ギアをニュートラルの位置に入れ、ハンドブレーキを引く。
- 2 夜間でも、街灯等により50m後方から駐停車していることがわかる場合は、非常点滅表示灯・尾灯はつけなくてもよい。
- 3 大規模な地震が発生し、やむを得ず車を置いて避難するときは、道路左側に寄せて駐車し、窓を閉め、ドアロックをして避難する。
- 4 タイヤがスリップして発進できないときは、砂袋やマットなどを駆動輪の前にさし入れて滑らないようにするとよい。
- 5 二輪車でぬかるみや砂利道を走行するときは、高速ギアで一気に通過するとよい。
- 6 夜間は昼間に比べて、歩行者や障害物などが見えにくくなるため、昼間より少し速度を落としたり、車間距離を長めにとって運転することが大切である。
- 7 舗装道路では、雨の降り始めはすべりやすいので特に注意が必要である。
- 8 霧で視界が悪いときは、前照灯を上向きにし、中央線付近を走行するとよい。
- 9 夜間、見通しの悪い交差点を通過する際は、自車の存在を他車に認識してもらうため、前照灯の上下の切り替えを行うとよい。
- 10 前照灯は、交通量の多い市街地などを通行するときを除き、上向きにして歩行者などを少しでも早く発見するようにする。
- 11 雨の中で高速走行すると、ハイドロプレーニング現象が起き、ハンドルやブレーキがきかなくなるため、速度を落として走行するようにする。
- 12 トンネル内や濃い霧の中などで、50m(高速道路では200m)先が見えないところを通行するときは、昼間でも灯火をつけなければならない。